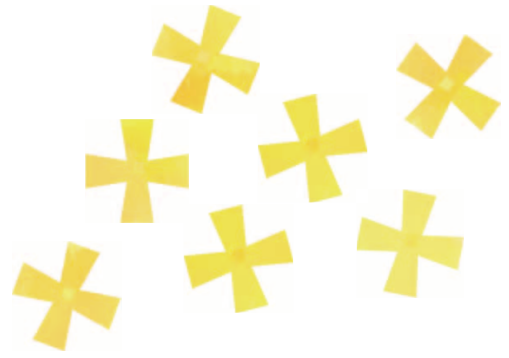


菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER



No. 60
令和7年1月



開聞岳



山川製塩工場跡



龍宮神社



長崎鼻 灯台

当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。



たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。

contents

- P.2 2025年 新年のご挨拶
- P.3-4 第11回指宿医療センター市民公開講座
- P.5-6 第78回国立病院総合医学会が開催されました
令和6年度ソフトバレーボール大会
- P.7 第77回指宿温泉祭にてハンヤ踊りに参加しました
- P.8 連携先医療機関紹介 生駒外科医院
- P.9 指宿 菜の花通信
- P.10 外来診療担当医一覧

理念

患者さまにやさしく、
地域に信頼される
良質な医療の提供をめざします。

運営方針

- 1 がん診療の治療の向上をめざします。
- 2 成育医療の充実をめざします。
- 3 救急医療の充実をめざします。
- 4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。



2025年 12040 地域医療構想について



院長
鹿島 克郎

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年も指宿医療センターが地域中核病院としての役割を果たせるよう精進しますので、ご支援ご協力を宜しくお願い致します。

厚生労働省の新たな地域医療構想等に関する検討会で2040年を見据えた医療機関機能の3つのイメージとして、①高齢者救急の受け皿となり、地域への復帰を目指す機能 ②在宅医療を提供し、地域の生活を支える機能 ③救急医療等の急性期の医療を広く提供する機能一が地域医療機関に求められることが示されました。

2040年に向けた指宿医療センターのビジョンを述べるには、現在の当院の立ち位置を具体的なデータで示す必要があります。

当院は5疾病6事業のうち、4疾病(がん、急性心筋梗塞、糖尿病、脳卒中(保存的治療のみ))、4事業(救急、周産期、小児救急、新興感染症)を担っており、指宿地域で出動する救急車が月平均170～180台出動する中で37～45%を受け入れています。2024年夏は猛暑による熱中症患者の急増があり、7月単月で269台の救急車出動があり、43.5%を当院で受け入れました。また、新型コロナ感染症重点医療機関として計515名の入院患者さんを受け入れ、18名の重症者が当院でお亡くなりになりました。

当院は感染症病床4床、超急性期病床(HCU)4床、地域包括病床20床を含む158床の急性期病院ですが、病床利用率70%以上を常時維持することは困難です。経常収支の赤字は独立行政法人国立病院機構(NHO)の全国140病院中約4割の黒字病院で補填しているのが現状です。

当院での救急医療の内容として消化器救急(消化管出血、腸閉塞、胆膵系急性疾患、急性胃腸炎等)や循環器疾患(急性心筋梗塞、急性心不全、不整脈等)は厚労省のイメージ③に相当しますが、入院患者の平均年齢は68歳で80歳以上が34%を占めることから、厚労省のイメージ①がまさに当院のような地方の急性期病院に求められています。

2024年度診療報酬改定での地域包括医療病棟の新設がイメージ①を想定しているのは明らかですが、在宅復帰率や平均在院日数、リハビリスタッフの配置など施設基準が厳しすぎて厚労省が地域医療の現状を把握しているとはとても思えません。

医師偏在、病院薬剤師不足、看護師不足、医療DXの遅れ等2040年地域医療構想に関して多くの難題があります。厚労省を中心とした行政機関と私たち医療現場の声が有機的に繋がり、地域医療に対する国民の理解が深まることを期待したいものです。

第 11 回指宿医療センター市民公開講座

令和 6 年 11 月 23 日 (土)、指宿市民会館 大ホールにおきまして、第 11 回指宿医療センター市民公開講座「脳卒中ってどんな病気なの？脳卒中を知ろう！～市民のための脳卒中講座～」が開催されました。

当日は 306 名の市民の皆様にご来場いただきました。



講演 1 「脳卒中とは(脳)が突然に(卒)あたる(中)病気です」

1

講師：鹿児島赤十字病院 脳神経外科医師 川添 一正

脳卒中とは(脳)が突然に(卒)あたる(中)病気です。

突然に起きる病気の多くは血管に関係します。そのような病気の総称を循環器病といいます。脳の血管により起こる病気が脳卒中です。

脳卒中は起きてしまうと死んでしまうか寝たきりになる危険性が高い病気です。そうすると本人だけではなく、ご家族も含めて人生が変わってしまいます。ですので、脳卒中は予防が大切なんです。脳卒中にはくも膜下出血、脳出血、脳梗塞があります。最近は脳梗塞の割合が 7 割以上です。脳梗塞を予防するには、動脈硬化予防と心臓の動きの乱れがないかを調べる必要があります。動脈硬化の原因は、糖尿病、高血圧、脂質異常症の生活習慣病と、タバコ、お酒、ストレス、運動不足、肥満といった生活習慣があります。脳出血予防は動脈硬化と高血圧が大切です。くも膜下出血の予防は、動脈のふくらみを破ける前を見つけることが大切です。MRI 検査で見つけることができます。このような危険因子を調べるのが脳ドックです。ぜひ脳ドックを受診しましょう。心配な時は脳外科、神経内科の先生に相談しましょう。



講演 2 「心臓病に関連した脳梗塞」

2

講師：指宿医療センター 循環器内科部長 吉重 祐介

先日は多数の皆様にご来場いただき、ありがとうございました。脳卒中についてとのことで、循環器内科医の立場から、心房細動についてお話をさせていただきました。

心房細動は高齢者に多く、人口比率 1% 程度いるといわれている、身近な不整脈です。左心房が細かく震えることにより、心房の全体としての収縮が出来なくなることで、結果として心房内の血液がよどみ、そのため血栓を作りやすくなります。その血栓が血流に乗って脳の血管が詰まることで、脳梗塞を起こします。心房細動による脳梗塞は、比較的大きな血管が詰まったり、複数の血管が詰まることで、より大きな後遺症を起こす可能性があります。

治療の 3 本柱は、1 にリズムコントロール（不整脈を止めること）、2 に抗凝固療法（血栓予防）、3 に脈拍コントロール（70-80/分を目標に）になります。抗凝固療法については、CHADS2 スコアについてもお話をさせていただきました。

また、早く心房細動に気づくためにとのことで、検脈のやり方、また血圧計でエラーが出る、心拍数にばらつきがある・・・などでも気づく事ができることをお話をさせていただきました。

検脈については、練習すれば誰でもできるようになりますので、市民の皆様にはひろげていきたいと思っております。





講演 3 「脳卒中の予防と運動」

講師：指宿医療センター 理学療法士長 荒井 慎一

皆さん、運動する習慣はお持ちでしょうか。

脳卒中の危険因子には高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、過度な飲酒、肥満などさまざまなものがありますが、その中でも重要な危険因子のひとつに運動不足があげられます。じっとしている時間が長く、運動している時間が短い程、脳卒中発症が有意に多くなるとの研究報告もあり、脳卒中の予防のために運動靴に手を伸ばすことは、薬に手を伸ばすことぐらいに重要であるといわれています。

定期的に適度な運動を行うことには、血圧を低下させる、血糖値を下げる、善玉（HDL）コレステロールの増加を促し、悪玉（LDL）コレステロールの減少につながるなどの効果があります。

脳卒中の予防には有酸素運動と筋力トレーニングの組み合わせが効果的です。有酸素運動とはウォーキングや早歩きなど筋肉への負荷が比較的に軽く、長時間継続して行える運動のことをいいます。運動の目安としては呼吸を止めないで行える、ややきつと感じる程度の中強度の運動を1日20～30分、週に3～5回無理のない程度で行います。筋力トレーニングで簡単に行えるおすすめの運動としては、座った姿勢からお尻を20cm程浮かせたまま3秒程キープ後、ゆっくりと腰をおろすという動作を10回程繰り返す運動があります。その他、下肢を中心に自分に合った中強度の運動を無理のない範囲で行っていただければと思います。

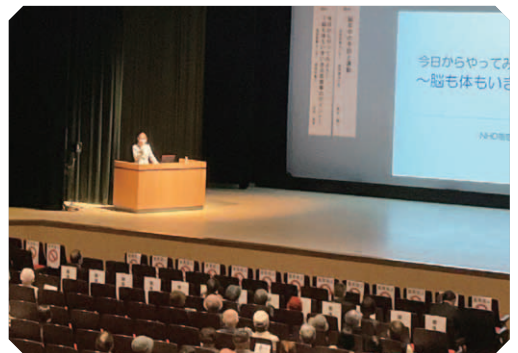
また普段歩くとき、ときどき早歩きをすることで効率的に運動量を増やすことができます。このように日常生活の中で運動する時間をしっかり確保して、脳卒中など生活習慣病の予防に努めることが大切です。



講演 4 「今日からやってみよう!～脳も体もいきいき元気 食事のポイント～」

講師：指宿医療センター 管理栄養士 吉田 有希

今回、私は脳卒中予防のための食事についてお話をさせていただきました。脳卒中は高血圧や糖尿病、肥満、アルコールの過剰摂取など食生活とも大きく関連しており、生活習慣の見直しや改善により予防することができます。食べることは私たちが毎日を元気に過ごすために必要不可欠です。「食べるのが好きですか?」という質問に対して会場のほとんどの方が手を挙げられ、皆様の食事に対する関心や興味は高いと改めて確認することができました。今回の講演をきっかけに皆様が脳卒中予防のために「何かやってみよう!」と思えるポイントの一つでも見つけ、実践して頂けると嬉しいです。「何かを抜く」等の極端な食事制限ではなく、継続は力なりと言われるように、皆様それぞれで継続できることを取り入れて頂きたいです。「メリハリをつけながら食事を楽しむ」ということを一番お伝えしたいです。是非、食べる楽しみを見つめながら脳卒中や生活習慣病予防に向けて今日から脳も体もいきいき元気になるような食事のポイントを一緒にやってみましょう!今後も指宿市の皆様が元気に過ごして頂けるよう食事のサポートを行っていきたいと思います。



第78回 国立病院総合医学会が開催されました

『進化していく病院であるために～心理的安全性の高い組織づくり～』をテーマに令和6年10月18日(金)・19日(土)に大阪府で第78回国立病院総合医学会が開催されました。当院からは10名が発表いたしましたので、紹介いたします。



第78回国立病院総合医学会に参加して

薬剤師 梅本 啓史

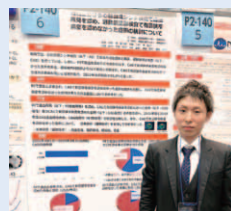
総合医学会に参加し「B型肝炎再活性化における医師へのアンケート調査」という演題で、ポスター発表をさせていただきました。昨年からの私の研究テーマであった内容の集大成でした。内容が類似した発表もあり、他施設の取り組みなども知ることができ、大変勉強になりました。今回の成果と他施設の取り組み等を参考に今後の活動に活かしていけるようにしたいと思います。最後に今回の発表に関して調査にご協力いただきました、当院の医師の皆様、ご指導頂いた谷口科長をはじめ、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



第78回国立病院総合医学会に参加して

RI検査主任 永谷 大輔

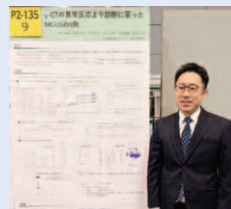
第78回国立病院総合医学会で昨年度に引き続き、「当院における心筋血流シンチ検査で虚血所見を認め、冠動脈造影検査で有意狭窄病変を認めなかった症例の考えられる要因について」ポスターにて発表を行いました。今回で3回目の発表となりましたが、多くの質問が届き、さらに同じ分野で発表されている方も多く、いろいろ学ぶことができました。発表で学んだことや課題を今後の業務に活かしていきたいと思っております。ご協力をいただいた循環器内科及び放射線科の皆様方に感謝申し上げます。



第78回国立病院総合医学会に参加して

研究検査科 生理学主任 迫田 真明

第78回国立病院総合医学会にて、一般演題(ポスター形式)を発表しました。演題名は「 γ -GTの異常反応より診断に至ったMGUSの1例」とし、内容としては、生化学検査における異常反応の検出を契機にMGUSの診断へと至った症例の報告でした。また、異常反応の検出と対応については、検査科以外の部門からは見えない部分であり、そういった事例について臨床側への関与が必要となることを再認識することができた症例でした。学会にて報告を行うことで様々なご意見を頂戴し、より理解を深めることができました。



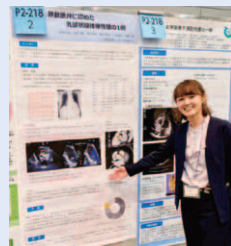
第78回国立病院総合医学会に参加して

臨床検査技師 清 美沙紀

この度、第78回国立病院総合医学会一般演題にて「肺動脈弁に認めた乳頭状線維弾性腫の1例」についてポスター形式で発表しました。発表に際して、院内だけでなく九州支部の先輩方の協力もあり無事に終えることができました。同セッションでは他にも心臓腫瘍について発表されてる方がいたため、発表前後に意見交換や疑問点などを教授いただき学びを深めることができました。

発表後のお好み焼きは、格別に美味しかったです。

最後に、今回の発表で学んだことや課題を今後の業務に活かしていきたいと思っております。



第78回国立病院総合医学会に参加して

理学療法士 原口 晋一

令和6年度国立病院総合医学会において、令和2年度から令和5年度の3年間における転倒転落の活動内容をポスター発表しました。

他施設も同じ問題を抱えており 有意義な意見交換をすることができました。今後も多職種と連携しながら患者様が安全に入院生活を過ごすことができるよう、尽力したいと考えております。最後に、発表するに当たり、ご指導とご協力頂きました皆様に心より感謝申し上げます。



第 78 回国立病院総合医学会に参加して

栄養管理室 管理栄養士 吉田 有希

今回、私は「食事の必要性を伝えられたアルコール多飲による栄養失調患者の一例」について口演での発表をさせて頂きました。NST チームで栄養管理を行い、その後は外来においても食支援を継続している症例発表で、患者の性格や生活背景、病気に対するそれぞれの思いを把握することが重要で、それをチームで共有しながら退院後に向けた指導を行うことの必要性を感じました。地域医療支援病院の当院において、今後も患者それぞれに合わせた食支援を継続していきたいと思えます。学会参加に際し、ご指導を頂きましたスタッフの皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



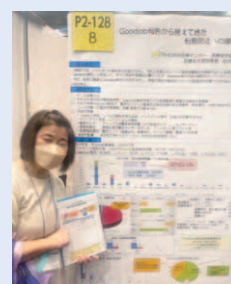
第 78 回国立病院総合医学会に参加して

医療安全管理係長 松元 恭子

第 78 回国立病院総合医学会に「Good job 報告から見えてきた転倒防止への課題」という内容でポスター発表を行いました。

医療安全の分野で他施設も転倒転落や患者誤認防止、指差し呼称の必要性など、同じような課題を抱えて日々取り組んでいることが分かりました。中でも、インシデント報告を AI で分析する試みを取り入れている施設もあり、効率的に分析を行いフィードバックしていく必要があると感じました。

今後もレベル0から転倒転落防止に取り組むことができるシステム作りに尽力していきたいと思えます。



第 78 回国立病院総合医学会に参加して

2病棟 副看護師長 池水 寛子

令和 6 年度 国立病院総合医学会にて「A 病院におけるワーク・エンゲイジメントと職務満足に関する研究—ワーク・エンゲイジメントの向上にむけて—」をテーマに、当院の看護スタッフを対象とした看護研究の結果を口演にて発表しました。ワーク・エンゲイジメントとは職務満足と類似した概念であり、これらが向上することでスタッフが活き活きと働き続けられる職場環境につながります。副看護師長として、スタッフのワーク・エンゲイジメントが向上できるよう努めていきたいと思えます。看護研究にご協力いただいたスタッフの皆様、ご指導頂きました皆様へ感謝申し上げます。



第 78 回国立病院総合医学会に参加して

3病棟 副看護師長 濱田 里香

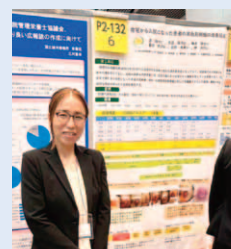
令和 6 年度 国立病院総合医学会にて、「患者の意向に寄り添いタイミングを逃さない意思決定支援」と題し、令和 5 年度から当院で事前指示書の運用を開始したことをきっかけに、副看護師長会の取り組みと今後の課題について口演発表を行いました。会場から、外来との情報共有のことや、事前指示書の開業医への説明についてなどの質問がありました。座長から「とても興味深い内容でした」と講評を頂きベスト口演賞を頂くことができました。今後も、患者、家族に関わる全てのスタッフが、ACP を理解し患者の意向に寄り添うケアが多職種で協働できるよう取り組みを継続していきます。



第 78 回国立病院総合医学会に参加して

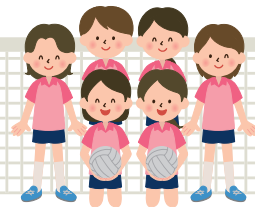
2病棟 看護師 渡 靖代

『在宅から入院になった黒色期褥瘡の回復経過』について症例をポスター発表しました。初めての国立病院総合医学会への参加でしたが、病棟師長、副師長を始めたくさんの方から助言をいただき、無事発表することができました。発表後は、当院が NST 早期介入するために行っていることや、褥瘡治癒促進のために使用したオルニュート以外になにか使用したものはないかの質問があり、当院の取り決めや対策について回答しました。また、他の病院での褥瘡や栄養の発表もあり、大変勉強になりました。今後の NST 褥瘡の活動に活かして行きたいです。



令和6年度ソフトバレーボール大会

算定・病歴係 井上 雄乃祐



去年に引き続き今年も院内レクリエーションでは、部署別対抗ソフトバレーボール大会を行いました。イベントの実行委員を行うのは、学生以来久しぶりだったため、試合のルール作成や参加メンバーのチーム調整等悩む所も多くありましたが、実行委員で話し合いや調整をし、無事開催することができてよかったです。

当日は多くの方が参加してくれたおかげで、大会は大盛り上がりし、ソフトバレーを通して部署の垣根を越えた交流や協力ができ、大成功で試合を終えることができました。

ですが私は1つ心残りがあります、それは私たち事務チームは1勝もすることができなかつたことです。1試合目3病棟、2試合目4病棟とどちらのチームもとても強く良い試合でしたが、数点差で負けてしまいました。もし来年も院内レクリエーションでソフトバレーが開催されたらリベンジできたらと思います。

最後に、今回ご参加いただいた皆様ありがとうございました。また来年もこのようなイベントがありましたらご参加よろしくお願いします。



優勝した3病棟

第77回指宿温泉祭にてハシヤ踊りに参加しました

経営企画係長 橋口 聡史

昨年度に引き続き今年も指宿温泉祭に参加しました。第77回目となる今年は9月28日(土) および29日(日)に開催され、当院からは鹿島院長先生をはじめ、医師・看護師・保育士等の職員総勢21名が28日(土)のハシヤ踊りに参加しました。



踊り申

私をはじめ、今年は初参加の職員も多く事前練習でもなかなか振り付けを覚えられず苦勞し、本番はちゃんと踊れるかなと少々心配でありました。

本番当日はたくさんの人出で賑わう中、揃いの赤い法被に身を包んだ指宿医療センターの踊り連が指宿駅前通りから商店街を踊り歩きました。踊りは30分×2回と、私を始め、普段運動不足の面々にはなかなかハードでしたが、沿道からの声援や、仮装や踊りのアレンジを施した元気いっぱい他の踊り連に励まされながらなんとか踊り抜くことができました。終了後は達成感をともなった心地よい疲労に包まれ、素晴らしい思い出となりました。参加いただいた皆様、本当におつかれさまでした。是非来年も参加させていただきたいです。



駅前商店街



連携先
医療機関紹介

医療法人回生会 生駒外科医院



後ろの石柱は、明治26年に曾祖父が開業した診療所の門柱の一部です。

医師 生駒 明、生駒 茂、生駒 真一郎

診療科目 外科、内科、消化器内科、乳腺外科、
肛門外科、小児外科、皮膚科、整形外科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
08:30 ~ 12:30 (受付時間 12:00 まで)	●	●	●	●	●	●	/
14:00 ~ 18:00 (受付時間 17:30 まで)	●	●	●	●	●	●	/

休診 日曜日・祝日

※急患の場合はこの限りではありません。

生駒外科医院は曾祖父が明治26年(1893年)に現在の指宿市湊地区に開業したのが始まりで、来年で132年になります。曾祖父から息子まで5代にわたって指宿の地域医療にかかわっていることとなります。胃癌、大腸癌、乳癌、胆石症、虫垂炎、ヘルニア、急性腹症などの手術を行っています。腹腔鏡下胆嚢摘出術を1992年より開始し、1998年より内視鏡外科を胃癌、大腸癌にも導入しました。現在も全身麻酔の手術の80%が内視鏡手術となっています。

外科では頑張っているつもりですが、日常臨床では外科以外の疾患の方が圧倒的に多いのが現状です。当院は19床の有床診療所なので入院は可能ですが、病院に比べるとスタッフの数が少ないので、自力で動くことが困難な高齢の患者を入院加療することには人員的に無理があります。当院で治療することが困難と判断すると、指宿医療センターの先生方に電話させていただいています。突然の重症患者の依頼にもかかわらず、いつも快く受け入れていただき心より感謝しております。

当院のかかりつけ患者が、うっ血性心不全、急性心筋梗塞、心房細動などに陥ることがしばしばありますが、そのたびに循環器内科の先生方に助けていただいています。高齢で全身状態が悪い消化管出血などの患者も消化器内科の先生方に助けていただいています。急性腹症で当院が対応できないときは外科の先生方に助けていただいています。血尿、頻尿、尿閉で当院で手に負えないときは泌尿器科の先生方に助けていただいています。

新型コロナウイルスによるパンデミックでは、指宿の医療も大変な混乱に陥りました。当院で発症したコロナ感染患者を、指宿医療センターが感染症病棟への転院を受け入れてくださいました。当院には隔離する部屋がなく心底困り果てていましたので、鹿島先生が神様仏様のように感じました。その後も指宿医師会、指宿医療センター、指宿市役所、保健所からなる新型コロナウイルス対策会議が数多く開催されました。県内でもっとも素晴らしい対策ができたのも、指宿医療センターが中等症以上は引き受けるという心意気を示したからだと思います。

指宿医療センターという頼りになる中核病院があり、指宿医師会の会員の先生方は本当に幸せだと思います。これからも指宿医療センター、指宿医師会が協力し、指宿の医療が素晴らしいものになることを願っています。



田舎医者の流儀 (240)・・・冬前の札幌

11月1日、冬前の札幌へ孫に会いに行った。寒かろうと思い、冬支度で行ったがコートはいらないくらいであった。紅葉が遅れていて、見ごろであった。中島公園の銀杏や桜が綺麗に色づき、多くの人が紅葉を楽しんでいた。北大の銀杏並木も見事に色づいていた。札幌市内は公園が多く、どこでも紅葉を楽しめた。



今年はキンモクセイの花が咲くのが遅く、農園の樹も10月末にやっと花がさいた。いつもは9月下旬には咲いていたので1か月遅れぐらいだ。気候の変化が花時期を狂わしているのか。農園は朝顔、桜ラン、ハイビスカス、コスモスと夏・秋の花が混在して咲いている。それはそれで花を楽しんでいるけど、なんか変な気分でもある。今まではキンモクセイの花の香りも楽しんでいたが、80歳の鼻は最近匂いを感じなくなった。残念ながらその匂いを楽しめなくなっている。

日本のプロ野球は横浜ベイスターズがリーグ戦3位からCSファーストステージを勝ち上がり、26年ぶりの日本一に輝いた。当初2連敗し、ソフトバンクに歯が立たないのかと思ったが、その後4連勝、26年ぶり3度目の日本一に輝いた。三浦大輔監督の下、シーズン3位からの日本一は、2010年にパ3位から頂点に立ったロッテに次いで2球団目で、セでは初。1998年に優勝してからなかなかできなかった。昨季のエース今永はカブスへ移籍。チーム力に懸念が持たれていたが三浦監督は秋に戦えるようにチーム作りをし、日本一に導いた。アメリカで成績を残せなかった筒香がここにきて活躍したのも嬉しい。横浜ベイスターズおめでとう、良かったね。

アメリカのMLBでは大谷翔平の属するロサンゼルス・ドジャースがニューヨーク・ヤンキースを破ってワールドシリーズを制した。大谷は世界一になる夢を達成した。彼の頂点に立ちたいという強い意欲に驚くと同時にそれを達成していく能力に感嘆する。野球は団体競技なので一人の思いだけでは目標を達成できない、大谷の強い思いはチーム全体に波及・浸透して快挙に至ったようだ。その面でも彼の能力はすごい。

11月4日振替休日の朝は寒かった、今年初めてヒートテックの下着を出して着た。それでも農園に向かう午前6時過ぎの道すがらは寒々としていた。しかし、昼間は27℃まで気温は上がり夏日になった。コケ庭は今、落ち葉で埋め尽くされている。茶色・黄土色などの葉っぱが落ちているが、2割位は青・緑の葉っぱもある。椅子に座って眺めると、風に乗る、夢い淡雪のように間断なく降り注いでくる。

指宿医療センターHP菜の花通信

<https://ibusuki.hosp.go.jp/topic/nanohana-tweet/>



外来診療担当医一覧

令和7年1月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
循環器内科	午前	鹿 島	吉 重	鹿 島 園	大 川 井 畑	鹿 吉 島 重	
総合診療内科	午前	大 井 花田(血液内科)	花 田	中 村	花 田	中 村	
消化器内科	午前	羽 田	(休 診)	門 松	灰 床	羽 田	
肝臓内科	午前		大 重		大 重		
小 児 科	午前	荒 武	田 邊	田 邊	関	田 邊	午前診療：8時30分～11時 午後診療：14時～16時 予防接種 (毎週月曜・火曜・木曜) 受付14時(要予約) 一ヶ月検診 (月・木) 受付13時(要予約) 3～4・7～8・9～11ヶ月・1歳児健診(火曜) 受付13時45分(要予約)
	午後	外来	荒 武	関	荒 武	関	
		予防接種 健診	田 邊	関	田 邊	関	
外 科	午前	(手術日)	宮 蘭 迫 大	宮 蘭 迫 大	(手術日)	予約外来(手術日)	
泌尿器科	午前	栞 木	(手術日)	栞 木	栞 木 (再診のみ)	栞 木	
腎臓内科	午前	尾 田				外部医師(不定期)	17番診察室にて診察します。 10:00～(要予約) ※金曜は不定期(月2回)のみ
産 婦 人 科	午前	古 謝 竹 歳	甲 斐 竹 歳	(手術日)	古 謝 甲 斐	古 謝 甲 斐・竹 歳	1ヶ月健診 (月・木曜日:要予約) 2週間健診 (月・火・木・金:要予約) 午後診療受付 (水・金曜日以外) 13時30分～15時(再診のみ) 母乳外来 (毎週火・木曜日) 母親学級 (毎月第2・3水曜日) 金曜の診療については、奇数週は竹歳、偶数週は甲斐が診療を行います。
	午後	古 謝 竹 歳	甲 斐 竹 歳 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	古 謝 甲 斐 助産師 母乳外来	(手術日)	
眼 科	午前	尾 辻 大 川	尾 辻 大 川	尾 辻 大 川	尾 辻 大 川	尾 辻 大 川	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。
	午後	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(特殊外来)	(特殊外来)	木曜・金曜の午後は特殊外来(視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など)
専門外来	午前	呼吸器内科	小児外科		脳神経外科		呼吸器内科 毎週月曜日 予約制 呼吸器外科 毎月第2・4水曜日 (14時～16時) 予約制 小児循環器 毎週月・木曜日 (14時・15時・16時) 要予約 ※毎週火は16時のみ要予約
	午後	呼吸器内科 小児循環器	小児外科 小児循環器	もの忘れ 外来	小児循環器 呼吸器外科 脳神経外科		小児外科 毎月第1・3火曜日 (9時45分～14時30分) 要予約 もの忘れ外来 第2・第4水曜日 (14時～16時) 要予約 脳神経外科 毎週木曜日 (9時～16時)
内 視 鏡 検 査		灰 床 門 松	羽 田 灰 門 松	羽 田 灰 床	羽 藤 田 井	赤 崎 灰 門 床 松	第2・第4木曜日 藤井
整形外科	午前			織 田		織 田	水曜日・金曜日 9時～17時 受付:(織田先生) 9時～11時・14時～15時30分 鹿大医師(水)・(金) 午後 受付:13時～15時00分
	午後			織田・鹿大医師		織田・鹿大医師	



JRの場合

JR指宿枕崎線に乗車頂き、指宿駅で下車して下さい。
指宿駅から山川行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」(約10分)で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

バスの場合

JR鹿児島中央駅(鹿児島市)から山川橋行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

自動車の場合

鹿児島市からは、産業道路を進んで国道226号線を山川方面へ進んで下さい。
指宿医療センターは国道沿いにあります。

- 受付時間 午前8時20分～午前11時00分
- 診療時間 午前8時30分～午後17時15分
- 休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※急患の方は随時受付いたします。
- 電話番号 0993-22-2231

発 行：独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地
T E L：0993-22-2231 (代表)
F A X：0993-22-2772 (地域医療連携室)
U R L：https://ibusuki.hosp.go.jp
印 刷：株式会社陽文社